

「ハンドベル・クワイア」の活動

藤原 淳賀（ハンドベル・クワイア チャプレン）

序

筆者は宗教主任として2023年度後期からハンドベル・クワイアを担当している（2023年度はシュエ 土戸 ポール先生と共に、2024年度は島田由紀先生と共に）。この1年半の活動については深く関わっているのだが、それ以前のことは詳しく存じ上げていない。そのため、14年にわたりハンドベル・クワイアを指導してくださっているハンドベル・クワイア指導者、鷺晶子先生（大学オルガニスト）に書いていただいた資料に、特に「青山学院大学ハンドベル・クワイアの歴史」は、多くを負っている。

青山学院大学ハンドベル・クワイアの歴史

1979-2010

青山学院大学ハンドベル・クワイアは、1979年度に創設された。最初は、青山キリスト教学生会（Aoyama Christian Fellowship [ACF]）の学生たちと、ハンドベルをやりたい学生とが練習して、礼拝で讃美歌を奉鐘していた。

1983年の日本ハンドベル連盟会報によると、青山学院宗教センターが3オクターブと4オクターブの2組のハンドベルを所有していたことがわかる。

1983年のハンドベル・クワイア合宿のしおりには、顧問の伊藤信夫先生、また学生として（現在は青山学院初等部部長でハンドベル連盟理事長の）小澤淳一先生の名前が記されている。

1984年6月29日に「オール青山ハンドベルコンサート」が初めて青山学院講堂で開かれている。同年12月8日には、青山学院大学ハンドベル・クワイア第1回クリスマスチャペルコンサートが大学礼拝堂で行われている。この頃から大学ハンドベル・クワイアの活動が活発になってきている。

1986年度からは橋本久喜先生（現神奈川混声合唱団音楽監督・常任指揮者）がアドバイザーを務めてくださり、学生指揮者への指導、クワイア演奏のアドバイスをしてくださった。また多くの曲をハンドベルのために編曲してくださった。1986年には会津市の若松栄町教会に演奏旅行に行っている。

1997年度には岡井晃教授（大学オルガニスト）が顧問となられた。この頃は学外での活動も活発であり、ハンドベル関東大会や全国大会にも参加している。

2003年度には木村栄子先生がハンドベル・クワイアコーチに就任されている。アメリカでオルガンとハンドベルを専門に学ばれた木村先生は、深い信仰と愛に根ざして、明るく温かくご指導をされた。この年はジョン・ウェスレー生誕300年と相模原キャンパス開学という年であり、ハンドベル・クワイアにも特別な演奏の機会があった。

2010-2024

2010年度に木村先生の後継として鷺晶子先生がハンドベル・クワイア・コーチに就任された。鷺先生は恵泉女学園高等学校時代に木村先生からハンドベルの指導を受けている。

鷺先生は、木村先生の方針を受け継ぎ、神様を賛美することを根幹として、学生が希望するクラシック、ジャズ、ポピュラー、映画音楽なども取り入れて選曲されている。

ハンドベル・クワイア隊員の多くは、神への賛美という関心よりも楽器への興味から入部してくる。クリスチャンの隊員は毎年0-2名程である。そのため、ハンドベル用に編曲されている元となっている讃美歌を皆で歌い、歌詞の内容が音楽の中に表現されていることを味わうようにしておられる。

2020年度はCOVID-19パンデミックのため、大学の授業もオンラインとなり、ともに集まっての活動もできなくなった。この経験から、あらためてハンドベルは、たとえ個人個人が完璧に演奏できてもそれだけでは生きた音楽にはならず、隣の仲間の音を聞きながらメロディを紡ぎ、ハーモニーを合わせていくことが不可欠であることを実感したという。

小、中、高校でハンドベルを経験してきた学生もいる。また全くの初心者の学生もいる。協力し合って、音楽を作り上げている。

2024年度の活動

2024年度は通常よりも多くの新入隊員を迎えることができ、現在は19人で活動している。5オクターブのベル、4オクターブのチャイムをフルに生かして演奏している。練習は毎週水、土曜日に青山キャンパス集会室A（前期は月1回相模原キャンパス集会室1）で行っている。

- 4月2日、3日 キリスト教概論Iオリエンテーション
- 4月3日 大学公認キリスト教4団体ウェルカム・コンサート
新入生勧誘体験練習（全8回）
- 4月13日 キリスト教推薦会歓迎イベント
- 4月24日 大学礼拝奉鐘（青）

5月23日	大学礼拝奉鐘（相）
5月29日	大学礼拝奉鐘（青）
5月29日	前期総会
6月14日	大学礼拝奉鐘（青）
6月21日	大学礼拝奉鐘（相）
7月7日	日本基督教団・美竹教会コンサート
7月15日	大学礼拝奉鐘（青）
9月6-9日	演奏旅行（岡山市西大寺・倉敷市真備町）
7日	西日本豪雨・能登地震支援報告会チャリティーコンサート
8日	日本同盟基督教団・西大寺キリスト教会 敬老礼拝奉鐘 / コンサート
9月21日	第39回オール青山ハンドベル・コンサート
10月12日	相模原祭開会礼拝 奉鐘 / 相模原祭コンサート
10月20日	日本基督教団・玉川教会礼拝奉鐘 / 秋のチャペルコンサート
10月29日	大学礼拝奉鐘（青）
11月1日	青山祭ハンドベル・コンサート
11月16日	青山学院創立150周年記念礼拝 奉鐘
11月29日	クリスマスツリー点火祭（青）
11月30日	秋のキャンパス見学会礼拝奉鐘（青）
12月7日	日本基督教団・富士見町教会屋外コンサート / アドベントハンドベルコンサート
12月12日	クリスマス礼拝（相）
12月17日	クリスマス礼拝（青）
12月20日	NHKニュース番組「ニュースーン」（お天気コーナー）出演
12月21日	ハンドベル・クワイア クリスマスチャペルコンサート
1月22日	後期総会
3月17-19日	合宿
3月25日	卒業礼拝奉鐘

このように多くの活動が行われている。演奏旅行も含めて、学外での奉仕は代表者（通常2名）が必ず打ち合わせに行っている。また演奏の前にリハーサルを行っている。よく準備されている。

おわりに

筆者は、この1年半担当チャプレンとして青山学院大学ハンドベル・クワイアと共に歩んできた。その中でその演奏の音色の美しさに魅了された。また講壇で学生たち

の演奏の後ろ姿を見ながら、また観客席で聴きながら、何度も涙が溢れてくることがあった。それは天の御国の香りを感じたからだと思う。何世紀にもわたる先人たちが作ってきたメロディ。ハンドベルの美しく柔らかい音色。そして何よりもハンドベルは皆で紡ぐ音楽なのである。バイオリンのソロも美しい。しかしハンドベルは上級者も初心者も一緒に一つの音楽を紡ぐ。

演奏旅行中には、就職活動中に一日だけ参加してくれた4年生もいた。時には体調を崩して参加できない学生もいる。後期の途中から新たに入った新入隊員もいる。鷺先生のご指導のもと、一曲ごとに隊員が配置を変え、補い合い、支え合いながら、ベルを持ち替え、音楽を紡いでいく。美しい音楽とその懸命な姿に感動した。

「すると、突然、天の大軍が現れ、この天使と共に神を賛美して言った。

『いと高き所には栄光、神にあれ地には平和、御心に適う人にあれ。』」

(ルカ2：13-14)

主のお誕生のときの天使たち、天の大軍にも、われわれの知らない状況、戦いがあったのではないかと思う。その中で、この特別なときのために練習していた神への最高の賛美を捧げたのではないかと、ハンドベル・クワイアのメンバーたちを斜め後ろで見ながら思うのである。